

令和6年度長崎県普及指導活動外部評価会議結果報告書

項目	内容等
趣旨	本県の農業者や地域のニーズを的確に捉え、より効果的・効率的な普及活動を展開するため、幅広い視点から普及指導活動を客観的に評価し、得られた評価結果をその活動に反映・改善していくことを目的に実施した。
評価方法	評価の項目は次のとおり。 ・普及指導活動の実施状況(課題設定の背景・目的、普及指導活動の内容、成果等) なお、普及指導活動の実施状況の外部評価は、毎年度、2振興局を対象とし、令和6年度は県北振興局と対馬振興局を対象とした。
実施時期	令和6年7月22日(月) 10:45～15:15
実施場所	宮地区コミュニティセンター(佐世保市)
外部評価委員	8名(先進的な農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業)

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	委員が評価した点	委員による普及活動に対する提案	提案に対する普及指導活動への反映状況
東北 振興局	「西海みかん」 産地の継続に 向けた基盤整 備の実施	課題設定 ・高齢化による部会員数、生産量減少の中、みかん1万トンの生産量維持やブランド率の向上による収益向上を課題として明確化し、農地集積や改植、大苗育成による植付期間を短くすることや不織布ポット導入による省力化・低コスト化を推進し基盤整備等や産地の維持を行っていることは見本となる。 ・課題に対して国の補助事業を利用する等、それぞれの専門の得意な点をうまくつなげて成果につながっている。 ・市場の評価が高く地域農業への貢献も大きいことやさせば広域かんきつ部会への事業の実施は担い手の経営意欲を高め、後継者育成にもつながる。	課題設定 ・国産みかんの良さやみかん園からのストーリー性のある情報発信等の消費拡大の取組を進めてほしい。 ・基盤整備の事業規模から推察すると投資額が大きいと考える。今後、農業者の営農規模や費用対効果、補助事業の活用等を考慮し、スマート化を含め営農を継続できる取組を進めてほしい。	課題設定 ・産地と連携し、西海みかんのブランド商材「味っ子」「味まる」が生産されるまでの過程を説明したチラシの配布や、生産から収穫まで品質にこだわった管理等がわかる動画を作成し、販売店舗等で放映するなどの対応を進めてまいります。 ・基盤整備においては、大部分を担い手へ集積することで地元負担が生じない事業を活用しております。今後は、ドローンを活用した防除作業の労力軽減を検討するなどスマート化を進め営農の継続を支援してまいります。
		活動方法 ・JA、部会生産者、市町との結びつけにより、事業が進みやすくなっており、市町、部会生産者、JAとの連携で、シートマルチ管理や各種国庫事業を有効に組み合わせ適切に活用等支援が行われている。 ・コロナ禍もあり時代の変化で業者や人も工面が大変な中で着工できたこと、コロナの時期も将来を見据えて活動を継続している。	活動方法 ・新たな加工品開発等の6次産業化など、県外へのさせばみかんの魅力・ブランドの を進めてほしい。	活動方法 ・加工品としては、みかん果実の美味しさが分かる「味っ子ストレートジュース」を商品化しております。また、西海みかん(加工品含む)についても首都圏や仙台等の県外消費地での消費宣伝会を行っており、今後もPRや消費拡大を支援してまいります。
		活動の成果 ・大苗育苗導入により、未収益期間が短縮され農家所得増に寄与できている。 ・地権者、耕作者との連携が密に行われており、将来性のある基盤整備によりこれからの就農にむけた入り口を作ることができ、当初の目的の成果は達成され、これから達成の成果が積みあがると考える。基盤整備は随時進んでおり今後の計画も進んでいる。	活動の成果 ・単収や品質向上のためには、激甚化、頻発化する気象災害に対応した産地づくりが必要と考えるので、立地上、台風(塩害)の被害も心配されることから、各種安定生産に向けた対策を講じてほしい。 ・圃場整備による農業者の収益向上の好事例となるように、農業者への指導支援をお願いする。また、普及の手法等については各産地への横展開につながる取組をお願いしたい。	活動の成果 ・気象災害に対応した産地づくりに向け、強風対策として、国庫事業を活用し防風ネットの設置を推進しています。また品質向上対策として、農研機構果樹・茶業研究部門が開発した大雨に影響されにくい根域制限栽培(片側Sシート)の実証試験に令和6年度から取り組んでいます。今後は生産者へ本試験結果等を提供するなど現地への普及を進めてまいります。 ・本産地の取組は、今後も現場指導等で優良事例として紹介するとともに、県内他産地への波及を目指してまいります。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
東北 振興局	産地主導型就 農ルートの体 制整備・運営 支援	課題設定 ・普及課題を細分化し明確にしている点や現場の必要性に応じ地元のビジネスとしての農業の持続可能性を高める課題設定となっている。 ・JAによる研修期間の設立に着目し部会を巻き込んだ受入れ、研修の実現ができたこと。	課題設定 ・SNS等の様々なメディアを活用した研修生の安定的確保の取組や、就農相談やお試し期間を設けた体験の取組など、農業未経験者を含め良い人材を確保に向けた手段を幅広く検討してほしい。	課題設定 ・今後は振興局・市町・JAの広報誌等、紙媒体による研修生募集だけでなく、JAホームページの活用やSNS等の媒体による募集を図り、研修生の安定的な確保に努めてまいります。 ・就農相談は研修前に随時実施しており、お試し期間を設けた体験は、非農家を対象に短期間の就業体験を行っております。
		活動方法 ・振興局、JA、市町、生産部局等が一致団結し面談・就農支援を行う等関係機関での連携が良好である。	活動方法 ・研修生の5年間の生活・メンタル面への配慮、就農後の関係団体と研修生の連携等の継続や栽培技術、経営、各営農類型等の相談・支援などサポート体制の整備や研修内容の充実をお願いしたい。	活動方法 ・就農後も研修生に対して振興局・市町・JA等で役割分担し、栽培技術・経営面だけでなく、生活・メンタル面についても個別に支援する体制を整備しております。また、今後、研修後の就農者の増加が見込まれることから、個別支援だけでなく、研修会を開催するなど就農者に向けたサポートを行ってまいります。
		活動の成果 ・毎年5名の枠に一定程度の参加がっており、3年間で12人の確保はまずまずである。 ・関係機関が目標意識を共有しながら達成にむけて尽力し、ある一定の成果がもたらされており、他地域への波及も期待できる。	活動の成果 ・新規就農者の定着に期待する。今後、取組の成功事例がモデルケースとして他地域への横展開できる取組も検討してほしい。	活動の成果 ・今年度県内7JAすべてに研修制度が立ち上がり、県農業経営課主催による市町・公社・JAの研修機関による担当学会が初めて開催されました。このような場を活用し、意見交換や情報共有を図り、優良事例の横展開や研修内容の充実を図ってまいります。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
対馬 振興局	対馬の園芸産 地維持と新規 就農者の定着 支援	課題設定 ・高齢化、労働力の不足、コスト高等本土よりも不利な環境で、市場流通価格の調査を行い、島ならではの利点・市場対策を生かすことで、端境期に出荷する対策での手取り増や高齢者、労働力不足への対応で労力軽減へ対応する目標設定への取組・対応。	課題設定 ・高齢化、労働力不足対策として、離島の基幹産業である農業の担い手確保に向けた情報発信の在り方や就農者募集のための島外の学校等への出前授業等の実施を含め担い手の確保にむけた取組を検討してほしい。	課題設定 ・現在、島外で開催される市主催の移住セミナーでの就農相談や振興局のSNSを活用してJA研修制度の周知など情報発信を行っています。また、JA部会員の後継者、Uターン情報の把握に加え、農大と連携して島内高校への訪問活動も実施しております。 ・今後、さらなる担い手確保に向け、島内で頑張っている農業者と連携し、島外向けにオンラインセミナーを行うなど検討してまいります。
		活動方法 ・地理的特徴を生かしていることや農家戸数が少ないところを活かし、個々の経営体に向けて農業の維持・継続・発展に向けた密接した指導サポート体制。	活動方法 ・長崎県といえども立地は福岡側なので例外的に福岡の関係機関と連携できるよう、行政や国の対応が柔軟にあってほしい。 ・生産者が意欲的に取り組めるように、アスパラガス・ミニトマトの収穫時期の調整による収益向上につながる取組や消費地のニーズを十分把握し、そのニーズに対応した密接した指導など、農地の維持・生産拡大の支援引き続き支援してほしい。	活動方法 ・対馬市は福岡県とゆかりが深い地域でもあり、福岡の市場関係者とは出荷反省会への招聘を行うなど連携しておりますが、現時点では他の関係機関との新たな連携は想定しておりません。今後、販路開拓や増産など行う場合、新たな連携について必要に応じ検討してまいります。 ・現在、対馬地域の冷涼な気候を生かし、他産地との競合を避ける作型の導入など、より収益性の高いアスパラガスやミニトマトの安定生産、生産拡大に向け、引き続き濃密な指導を関係機関と連携し行ってまいります。
		活動の成果 ・災害等で目標は達成していないが、関係者の支援で早急な復旧ができており、今後の支援体制への維持継続体制ができています。 ・できなくなったから止めるのでなくて、他にやれることを示すフローチャートを利用し、農家の方の意欲を失わせないような仕組みづくり、熱意で生産者の意欲が向上したこと。	活動の成果 ・今後の高齢化を見据え、現在試験栽培している山椒についても生産拡大の取組をJAと一体となり、取り組んでほしい。 ・限られた生産量でも、付加価値をつけ高単価で、安定的に取引される産地づくりやブランド化を進めるための取組を検討してほしい。	活動の成果 ・山椒は高齢者や女性でも軽量で容易に栽培できる品目として、JAと連携して島内各地に実証圃を設置し新規栽培者の掘起しを図るとともに、早期成圃化に向けた現地検討会や先進地視察等を行い安定生産並びに生産拡大を図ってまいります。 ・現在、アスパラガスやミニトマトなど作型の見直し・出荷期間の延長に取り組んだことで他産地の出荷が少ない時期に出荷でき、高単価で取引されています。今後は、アスパラガスについては、より高単価が期待できる太物(L以上)の割合を増やす栽培管理や、ミニトマトについては夏場の高温に強い品種の選定など検討してまいります。